

長野県塩尻市

市が中心となり、コンパクトシティ・プラス・ネットワークを目指し、産官学で連携しながら、まちづくりと一体となったオンデマンドバス・自動運転などの交通DXを促進。あわせて、自営型テレワーク推進事業(KADO)を通じて、地域内外の企業・地域住民の参画を得ながら、市民の就労支援やデジタル人材の育成を実施。交通DXを地域内で持続的に担える人材を確保し、**「地産地消型の新モビリティサービス」の実装に向けた仕組みを構築。**



1. 多様な主体の実質的参画

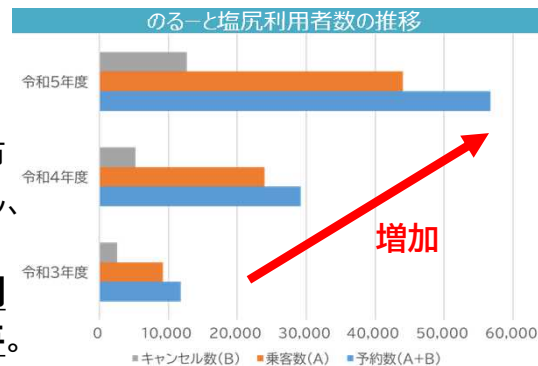
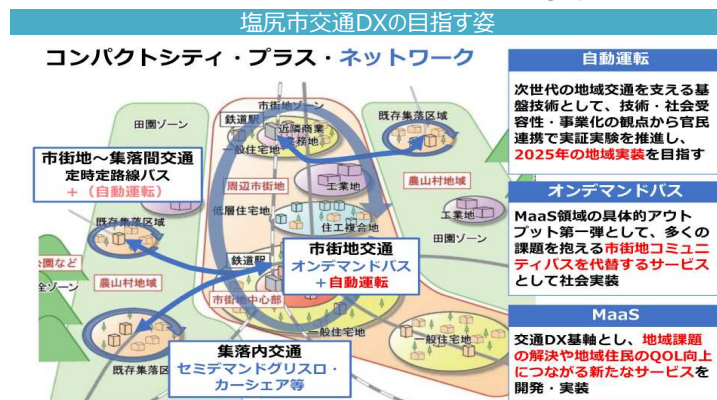
- 自家用車から地域公共交通サービスの転換のため、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」を目指し、「塩尻市交通DX産官学民共創体制」を構築。市が主体となり、令和3年に「塩尻市DX戦略」を策定。交通DXをリーディングプロジェクトに位置づけ、各種取組を実施。
- 産官学連携による「塩尻MaaS研究会」を定期的に開催、のりーと塩尻や自動運転などを含めたモビリティサービス全体の検討のための会議体とした。また、交通事業者、医療、地域住民等、多様な関係者が参画する「塩尻MaaS・自動運転協議会」を組成し、**全体マネジメント及び事業評価・検証を実施。**

2. 創意工夫

- R2年度から、自動運転・のるーと塩尻の実証実験を開始。のるーと塩尻は、R4年度からコミュニティバス路線を順次置き換え、本格運行を実施しているほか、R6年度中にエリア拡大が完了し、市街地ゾーン全域での活用が進んでいる。自動運転バスは、R6年度には市街地の生活道路において**特定自動運行（L4運行）を運行**したほか、R7年度からはL2による定常運行を開始。
- あわせて、自営型テレワーク推進事業「KADO」を通じて地域人材によるオペレーションサポートを実施し、スキルトランスファーを受けた**地域人材による推進体制を構築**。技術実証の段階からKADOが参画し、実装時における担い手としても確保することで、**外部人材に過度に依存しない、地域内での自立性・継続性を確保**するとともに、**地方部における自動運転・MaaS構築のロールモデルとなる仕組みを構築**。（「地産地消型の新モビリティサービス」の実装へ）

3. 自立性・継続性

- 「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の都市構造へと再編を進める「塩尻市立地適正化計画」をR元年に策定。R3年には地域公共交通計画を策定し、**まちづくりと公共交通施策との連携を強化**。
- 「のるーと塩尻」の導入前（R2年度）と比べて、**地域全体での公共交通利用者数が1.4倍に増加**（コロナ前比でも増）し、公共交通の利用促進に寄与。



自動運転・MaaSから都市機能の創出へ

塩尻市が先進的に取り組んできた自動運転、MaaS、KADO(デジタル人材活躍)…
それらの事業で培った産学官のネットワークと共創ノウハウを総動員し、
革新的な都市機能を創出する地域DXの拠点「地域DXセンター」を整備(R4年度)

塩尻市中心市街地に集約する地域DXを支える公共施設群

塩尻情報プラザ



- 用途 市独自光通信のオペレーションセンター、研修室等
- 開業 平成12年4月
- 規模 900㎡ (地上2階)
- 備考 行政施設のサーバー等が集積



市民交流センター えんぱーく



- 用途 図書館、貸館、交流スペース、テナント等
- 開業 平成22年7月
- 規模 11,900㎡ (地上5階/地下1階)
- 備考 年間65万人前後の利用者

シビック・イノベーション拠点 スナバ



- 用途 コワーキング、貸オフィス
- 開業 平成30年7月
- 規模 800㎡ (地上3階)
- 備考 コワーキング、アクセラ、リビングラボの3つの機能

塩尻インキュベーションプラザ



- 用途 貸オフィス、大学等サテライトキャンパス、研修室等
- 開業 平成19年1月
- 規模 4,200㎡ (地上3階)
- 備考 民間企業と塩尻市の区分所有

【当該施設】ウイングロード



- 用途 商業(生鮮/衣料/日用品)、文化支援、子育て支援、テレワーク拠点等
- 開業 平成5年4月
- 規模 24,200㎡ (地上3階/地下1階)
- 備考 平成22年にキーテナントが撤退し、市が床を取得。民間企業等と市の区分所有。



3F: KADO、こども広場、テナント

2F: DXセンター「core塩尻」、テナント

1F: テナント(ドラッグストアetc)

BF: デリシア(スーパー)

長野県塩尻市

参考：長野県塩尻市路線図

